

【経済学部】

○ディプロマ・ポリシー

【人材養成の方針】

本学部の教育目標を、「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。AGE とは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・咀嚼能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取的に提案することのできる人を指す。AGE は、社会のなかの民間セクターと公共セクター、ならびに営利部門と非営利部門のさまざまな分野で活躍することになるであろう。

【ディプロマ・ポリシー】

本学部は、AGE にとって必要な以下の7つの学修成果・能力を獲得した者に、学士（経済学）の学位を授与する。

- 1) 本学部の専門科目における「共通基礎科目」の履修から得られる経済学の知識をふまえた論理的な思考にもとづき、「専門基礎科目」の履修による柔軟にして応用的な発想ができる。
- 2) 専門科目における各種演習科目の履修により多様なデータおよび情報を収集・分析するスキルを身に付け、それを日々の生活のなかで活用することができる。
- 3) 基幹教育科目の外国語科目や英語を使用して授業を行う一部の専門科目の履修をとおして外国の言語と文化を学修・修得し、それらを活かしつつ問題解決の新たな糸口を探ることができる。
- 4) 専門科目における各種演習科目の履修により、自らが取り組んだ分析の結果を、言語や記号を用いて他者にわかりやすく提示することができる。
- 5) グローバル社会かつ地域社会の一員であることの自覚を持ち、自らの知識・技能を活かし、社会の発展のために寄与することができる。
- 6) とくに「専門演習1A・2」と「卒業論文」の履修をとおして、自ら学習目標・達成目標を立て、自主的・自律的に学習し、課題に対してグループで協議し、課題を解決できるための学習、調査、分析を行うことができる。
- 7) 多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想することができる。専門科目「卒業論文」は総合の能力を、「専門演習1B」は複眼的構想力を向上させるための科目として位置づけられている。

なお、本学部では、各学生が卒業後の自らの進路に沿って選択し履修する、以下の7種類のプログラムを設けている。これら7種類のプログラムの各々において、以下の「」内に記されている人の像は、AGE の下位類型に相当する。

- 1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
- 2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
- 3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
- 4) 「リージョナル・クリエイター」向けプログラム

- 5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
- 6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
- 7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム

○カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーにおいて示した7つの学修成果を学生が獲得することを目指し、経済学部のカリキュラム・ポリシーは以下の順次性にしたがって必要な科目を配置する。

【順次性に関する方針】

- ・基幹教育科目では、幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を修得させるために、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、英語及び初修外国語、健康・スポーツ科学科目（講義及び実習）を必修科目として配置し、主として1年次に履修させる。さらに、本学部での学修に必要な基礎的知識や技能を修得させるため、基礎教育科目である「基礎数学A」および「基礎数学B」を必修科目として配置し、1年次に履修させる。
- ・1年次には、経済学部の専門科目の講義である「入門科目」を履修することにより、経済学の知識や能力を身に付けるための準備を行う。また、基幹教育科目から、演習科目である「初年次ゼミナール」を履修することにより学士としての基本的な学習・調査・発表能力を養い、「外国語科目」および「基礎教育科目」を履修することで、国際的な意思疎通の仕方および数学的知識の基礎を学ぶ。
- ・2年次には、経済学部の講義科目としては「共通基礎科目」および「専門基礎科目」を履修することにより、経済学の理論および知識の基礎（「共通基礎科目」）と柔軟な発想力（「専門基礎科目」）とを身に付ける。演習科目としては「イノベティブ・ワークショップ」および「論文演習」を履修することにより、自主的・自律的な学習および他者との協働への態度を養う。また、1・2年次を通じて「総合教養科目」を履修することにより、幅広い知識を総合し活用することのできる能力を身に付ける。
- ・3年次および4年次には、経済学部の講義科目としては「応用科目」を、演習科目としては「専門演習1A」および「専門演習2」を履修することにより、経済学の学士に必要な知識および能力を身に付ける。

【学修成果の達成に関する方針】

- ・初年次から最終年次までのすべての年次において、少人数による演習科目を配置することによって、他者と意思疎通する能力、自律的に学習する能力、他者と協働する能力を身に付ける。
 - ・豊富に設けられた英語で提供される講義科目および演習科目を履修することによって、英語による受信・発信スキルを身に付ける。
 - ・講義科目および演習科目で提供される国内や海外の他大学との交流および討論の機会を通して、複眼的な構想力と協働への志向性を身に付ける。
 - ・卒業論文を作成することによって、それまでに獲得した学修成果を最大限に活かしながら多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想する力を身に付ける。
- 以上の学修成果を評価する方法は、それぞれの科目の種類に応じて異なる。演習科目においては授業中の発表やレポートの内容が、英語で提供される科目においては授業中の意思

疎通の水準と英語によるレポートまたは期末試験の成績が、講義科目では小テストや期末試験の成績が、学修成果の評価において重視される。卒業論文については、論文の質について多角的な評価がなされる。各科目の評価方法の詳細は、シラバスに掲載される。

経済学部が提供する科目は、大阪公立大学のめざす方針および大学設置基準第 21 条に則り、単位の実質化を図るべく構成する。

○アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

本学部は、「経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・咀嚼能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取的に提案することのできる人」を育てるという教育目標にもとづき、高等学校教育段階において人文・社会・自然科学を均衡のとれた仕方で学修し、グローバルな経済・社会が直面している問題に関心を抱き、他者との意思疎通や共同の事業に取り組むことのできる人を受け入れる。